

プロジェクト報告書

1. プロジェクト名／チーム名／メンバー

プロジェクト名： 和太坂そうめん流しプロジェクト→和太坂打ち水プロジェクト

チーム名： 流し〇〇

メンバー： 尾崎未奈巳・谷口楓・伊達大晃・鶴見直生・阿部達也

指導教員： 木村亮介

2. 背景・目的／目標

〈背景・目的〉

和太生が汗をかいて毎日上ってきている『和太坂』をもっと涼しく・楽に上ってほしいと考えたとき、打ち水を行うことで少しでも和太坂を涼しくできないかと思った。またその他にも涼しいと感じてもらえる何かを考えてみたいと思った。

〈目標〉

打ち水や風鈴の音を流し、坂を上りきったところで学生にアンケートをとり、「涼しいと感じた」と答えた人 50%（最高 80%）をめざす。

→最終的には大学側に効果を示し、ミストやスプリンクラーの設置を提案

3. プロジェクトの内容

① そうめん流しプロジェクト

当初プロジェクトを始動したときは「和太坂そうめん流しプロジェクト」として和太坂を少しでも楽しいものと思ってもらえるような企画を考えていた。そうめん流しを行う機会を考えた時、和太の夏祭りで行うのが望ましいという結果になり、大学再実行委員の方と交渉をした。しかし衛生面が安全であるか保障できない事、夏祭りの場では大きな場所を確保できない事から「和太坂そうめん流しプロジェクト」は失敗に終わった。

そこで、私たちは和太坂に焦点を当て、「和太坂打ち水プロジェクト」として新たに活動することになった。

② プロジェクト交渉&準備

「和太坂そうめん流しプロジェクト」での反省を基に和太坂を使用するための許可を施設整備課にとりにいった。しかしアポイントメントも取らずに押しかけたこと、指導教員がいないことから全く話を聞いてもらえなかった。そこ

で木村亮介先生に指導教員を依頼し、プロジェクトの企画書を作成して、アポイントメントを取ってから施設整備課に交渉に行った。そこから教務課で「和太坂打ち水プロジェクト」が行えるかどうかを検討してもらい、その結果許可がおりた。

当日までに行った準備としては、風鈴の音を流すためのスピーカー作り、転倒注意を促すための看板作り、アンケートボード作りだ。

4. プロジェクトの成果

① 風鈴

・風鈴の実施方法

実験は 10 時から 10 時半の時間帯に行い、天候は晴れ、気温 27.5℃、湿度 68 パーセントであった。始めに、紙コップとトイレトペーパーの芯を用いて作った簡易なスピーカー3つに、スマートフォンをはめこむ。次に、スピーカーを和太坂にある木の根あたりへ間隔を開けて置き、風鈴の音を流した。そして和太坂の上で待ち伏せをし、坂を上ってきた学生に口頭で、『(風鈴の音を聞いて)涼しい気分になったかどうか』のアンケートを取った。結果、涼しいと感じた人が 16 人、涼しいと感じなかった、または風鈴の音に気がつかなかった人が 8 人であった。

・風鈴の結果

風鈴の場合は和太坂に登る人の 3 人に 2 人に、涼しさを感じてもらうことができた。打ち水の場合は約 2 人に 1 人に涼しさを感じてもらうことができ、最低目標ではあるが達成することができた。結果的に、和太坂をのぼる人々に涼しさを感じてもらうという当初の目的を達成することができた。

② 打ち水

・打ち水の実施方法

今回の打ち水では、2L ペットボトルを使い、散水した。水は、最初にグラウンドの水道を使おうと考えたのだが、和太坂まで運ぶのに時間が無駄になるので、バス停横の水道を使わせてもらうことにした。午前 10 時ごろ、話題坂の半分ほどにまんべんなく散水した。また転倒事故を防ぐために、側溝の鉄板にはかからないようにした。それに加え、注意を喚起するために、看板を立てた。

15 分おきに気温を計測し、和太坂を上ってくる人に「涼しいと感じた」「涼しくなかった、わからない」の二択でアンケートに協力してもらった。

・打ち水の結果

打ち水による気温の変化は、表 1 のとおりである。15 分で約 0.5 度温度が下

がった。その後、気温が上昇した。

また、アンケートの結果は、表2のとおりで、五分五分の結果になった。

このような結果になったのは、打ち水の実施に気付かず上ってきてしまったことが原因であると考えられる。それに加え、誰も体が感できるほど温度が下がらなかったのも原因であると考えられる。

	打ち水前	15分後	30分後
温度(°C)	28.0	27.5	28.8
湿度(%)	75	75	75

5. 今後の課題

プロジェクトにおいて達成できなかったことは、「打ち水+風鈴の音」の三日目の実施である。プロジェクトを行ったのが六月中ということもあり、梅雨の時期でなかなか行えなかった。三日目に関しては今週中にやる予定だ。三日目は一・二日目の反省を生かして改善して取り組む予定だ。

プロジェクトを通してできた問題点は、二つあり、一つ目は打ち水をやっていることに気付いてもらえなかった事である。改善点としては呼びかけするようにすること。二つ目は気温の変化があまり出なかった事である。改善点としては時間帯を変えること。実際プロジェクトをやって打ち水に気付いてもらえなかったのは残念であった。

このプロジェクトをより良いものにするためには、風鈴を実物で用意したり、また打ち水を実際に体験してもらおうといいと思う。打ち水をする際もペットボトルを使用するのではなく桶を使ったりしてみるのもいいかもしれない。

私たちにとって一番の心残りといえばそもそも考えていた「和大坂そうめん流しプロジェクト」ができなかったことだ。あの和大坂にそうめん流しの台を作ればかなりのインパクトもあり、絶対にみんなに楽しんでもらえるようなイベントになると思う。ぜひ機会があり場所と衛生面が確保できるのなら実施したい。

6. まとめ

打ち水による転倒事故の危惧やその責任など、施設課にたいする配慮が足りていなかったため、和大坂の使用許可を得るのに時間がかかり、それがプロジェクト実行の妨げとなっ

た。そのようなリスクを考えた行動をとるために、細部まで具体的に考慮した計画を、初期の段階で練っておくべきであった。

さらに、学生のみでは解決できない場合があり、そのような時にそなえ、指導教員を早くにつけておくべきであった。

また、打ち水プロジェクト実行の際には、事前のシミュレーション不足によって、実行開始の時間がおしてしまった。そのためプロジェクトを行う際には、事前実験を必ず行うべきだと感じた。

良かった点としては、プロジェクト全体を通して多くの変更点があったにもかかわらず、柔軟にそれらに対応することができたことである。また、プロジェクト後半では、リスクをしっかりと捉えた上で議論を行い、計画の立て直しを行うことができた。